

新刊案内



『頭のいい人だけが解ける論理的思考問題』		
野村 裕之/著	ダイヤモンド社	T116/ノヒ
『国境って何だろう?14歳からの「移民」「難民」入門』		
内藤 正典/著	河出書房新社	T334/ナマ
『17歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと。』		
びーやま/著	ダイヤモンド社	T376/ヒヤ
『ちいかわハンドメイドBOOK』		
主婦と生活社/編	主婦と生活社	T594/チイ
『黒猫と首輪』		
木野 聡子/著	玄光社	T645/キア
『葉屋のひとりごと画集』		
しの とうこ/著	主婦の友社	T726/シト
『君がいるから』		
まなつ&まふゆ/著	大和書房	T726/マナ
『言葉にできない』		
かてい/著	扶桑社	T767/カテ
『「片思い世界」オフィシャルフォトブック』		
江森 康之/撮影	リトルモア	T778/エヤ
『文豪たちの微妙な関係 6人の文豪たちの代表的名作』		
芥川 龍之介 他/著	新紀元社	T913/フン
『クロニクル千古の闇』 9		
ミシェル パイヴァー/作	評論社	TF/ヘミ
『メイジアン・カンパニー 魔法科高校の劣等生 続』 10		
佐島 勤/著	KADOKAWA	TB/サツ



ティーンズのココロ通信

令和7年9月1日 発行

Eメール : info@lib-yama.jp

HP : <https://www.lib-yama.jp>

山口市立中央図書館 261号

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL : 083-901-1040

FAX : 083-901-1144



天体



今月のテーマは「天体」です。

月や星を眺めながら静かに過ごす時間は、心を落ち着けてくれる素敵なお時間です。今月は「天体」にまつわる本を紹介しています。本を通して、宇宙の不思議や美しさに触れてみませんか？



●『21世紀版少年少女日本文学館 8 銀河鉄道の夜』

宮沢 賢治／著 講談社 T918／ニシ

貧しい少年ジョバンニ。父は漁から帰らず、病弱な母を支えるために学校と仕事の両立で日々過ごしています。町で行われるお祭りの日、いじめっこに会って嫌な思いをしたジョバンニは人のいない丘で寝ころび、空を見ていました。その時、どこからか「銀河ステーション」という声が聞こえてきたと思ったら、いつの間にか列車に乗っていました。目の前には唯一の友人であるカムパネルラ。ここから2人の銀河鉄道をゆく旅が始まります。(S. E)

●『月の立つ林で』

青山 美智子／著 ポプラ社 /アミ

ポッドキャスト「ツキない話」ではタケトリ・オキナと名乗る男性が午前7時から10分間月についての話を毎日更新中。この配信の聞き手達が各章の主人公として登場するのですが、物語が進行するにつれて彼らの意外なつながりが少しずつ見えていき、ラストにはオキナの正体や彼にとってのかぐや姫も明かされます。

400倍もサイズの違う月と太陽が同じくらいに見えるのは何故？球体の月が縁までくっきり輝いて見えるのは何故？オキナの語りで月に関する豆知識も楽しめる1冊です。(R. S)

●『宇宙の図鑑 太陽系の最新像・ブラックホール・重力波…宇宙 138 億光年の謎に迫る』

沼澤 茂美・脇屋 奈々代／著 誠文堂新光社 440／ヌシ

以前、宇宙飛行士の油井亀美也さんの講演を聞いたことがあります。由井さんは元自衛官でしたが、どうしても宇宙飛行士になりたくて宇宙飛行士を目指します。そして、夢叶い宇宙へ。そして8月2日に2回目の国際宇宙ステーション(ISS)へ。写真が満載のこの本を読むとあこがれが広がりますね。ちなみにISSは地上から見ることができます。JAXAのHPを見てみてくださいね。

(T. O)

●『星に名前をつけるなら』

出雲 晶子／著 オーム社 T443／イア

星座に名前があるのは皆さんご存知だと思いますが、それ以外の小さな星々にも星座と同じように名前があるのは知っていましたか？どこで誰が名づけ、どんな意味を持っているのでしょうか。この本では、名前の付け方の基準や語源、由来ですとか、名づけによく使われる言語、込められた意味やエピソードなどを紹介しています。山口は比較的星空が見やすい地域です。夜空を見上げる際には、ぜひこの本で読んだ星を探してみてください。(S. E)

●『ひこぼしをみあげて』

瀧羽 麻子／作 偕成社 T/タア

中学一年生の千春は隣の席の那彩に誘われて天文部へ入部。知識不足から話についていけないことで居心地悪く感じる時もありましたが、その思いを素直に伝えて気持ちを通じ合います。夏合宿で見上げたベガやアルタイル、秋の文化祭で出し物とした手作りプラネタリウム、冬休みに先輩の家で眺めた流星群。季節の移ろいにつれて空に現れる星々が変わってゆくように、長い時を一緒に過ごす中で千春が気づく部の皆の新たな一面。読み終えた時、切なくもあたたかい余韻を味わえます。(R.S)

●『紙コップのオリオン』

市川 朔久子／著 講談社 T/イサ

中2の論里は母親、妹と血のつながらない父親と暮らしている。ある日、母親が置手紙をして旅に出る。論理は学校の創立20周年記念行事の実行委員に選ばれ、キャンドルナイトで星座を描くことになる。家族、友人、先生と登場人物が個性的でおもしろい。委員の中心として奮闘するなか、星と星がつながり星座になり、そして人と人がつながりお互い支えあうと気付く。伯母の「迷惑かけずに存在できるものなんか、どこにもないのよ」という言葉は印象的です。(T. O)